



MEDICAL OFFICE

医療の最前線からのワンポイントアドバイス — 医学部 専任講師（神経内科／メモリークリニック）

伊東大介 いとうだいすけ

認知症診療の現状と展望

2015年の厚生労働省の発表による

と10年後には認知症を患う人の数は700万人にのぼり、高齢者の5人に1人が認知症である計算になります。認知

症への対応は医療、福祉に限られた問題

ではなく、わが国の行政・政策の重要課

題でもあります。このような社会状況を

見据え、慶應義塾大学病院では、神経内

科および精神・神経科の2診療科合同で

認知症診療に特化した専門外来「メモリー

クリニック」を開設しています。本外

来では、患者の症状に応じて神経内科・

精神科両専門医が診療を担当し、科の枠

組みを超えた診療体制を確立しています。

このような共同診療形態は認知症診療に

おいては画期的な取り組みであり、多く

の施設から注目されています。また、

PET (Positron Emission Tomography)

検査など先進技術を積極的に導入し、

認知症診療の質の向上に取り組んでい

ます。

認知症をきたす疾患は多数ありますが、

6割以上を占めるのはアルツハイマー病

(Alzheimer's disease [以下AD])であ

り、その治療法の開発が切望されていま

す。分子生物学の発展のもと、ADの原

因が脳内のアミロイドという蛋白質の蓄

積であることが判明し、認知症の研究は

大きく進展しました。また、新しい画像

解析法（アミロイドPET）の開発によ

り、認知症が発症する15年以上前から脳

内にアミロイドの蓄積が始まる様をとら

えられるようになりました。現在、アミ

ロイドを取り除く薬剤の開発競争が進ん

でいます。こうした中、アミロイド

PETを用いて健常者からADの発症リ

スクがある人を見つけ出し、症状が出る

前から治療を開始し発症を予防する「先

制医療」に期待が高まっています。当院

では本年度より放射線科と共同でアミロ

イドPETを用いた研究を開始し、認知症の発症リスク診断を確立することを目指しています。

進行したADを根治することにはまだ

かなり時間がかかりますが、近い将来

ADの発症予防は可能になると考えてい

ます。しかしながら、ADの先制医療に

は高額な医療費がかかると予想されます。

また、ADを抑制することは人口学や人

類生態学にも多大な影響を及ぼすことに

なりかねません。高齢化はこれまで以上

に拍車がかかり、想定困難な介護問題が

生じることは避けられません。すなわち、

AD以外の認知症や重度要介護者の相対

的增加による介護の多様化、複雑化は必

至です。医学がはたしてこの難題にどう

取り組むのか、わが国がそうした苦境に

耐えうる社会を構築できるのか、我々、

認知症専門医に託された課題は重大かつ

深刻であると痛切に感じています。